

自	分	色	
は	っ	け	ん

vol. 1

区内で活躍する男女共同参画人



区内中学校PTA 会長
「おやじの集い」発起人

しょうじま たかひろ
庄嶋 孝広 さん

profile

1974年福岡県生まれ。本業は、地域づくりコンサルタント。大田区非常勤専門職(地域力連携協働支援員)を兼業。地域では、2013年度大田区立小学校PTA連絡協議会会長、おた区民活動団体連絡会共同代表など。区内に妻と子ども3人の5人暮らし。

地域で活かす親父の力

地域活動を始めたきっかけは？

福岡の田舎町に生まれ、子ども会の活動で地域の大人に育てられたことから、もともと「地域」や「地域活動」には興味を持っていました。

大田区で地域に関わったのはNPO活動からです。そのうち子どもが生まれ、小学校に通い出すと、そこでまた新たなつながりができ、ますます地域と深く関わるようになっていきました。

現在、子どもが通う中学校のPTAや、区内のNPO・ボランティア団体の連合体である「おた区民活動団体連絡会」など、いくつもの団体で取りまとめ役をしています。これらはすべて地域の人たちとのつながりが広がっていった結果です。

中でも3人の子どもの通った小学校で、PTAの委員・副会長・会長を務めたのは大きな経験でした。PTAというと女性が担うイメージが強いかもしれませんが、男性の視点が入ることでも物事がスムーズに運び、地域活動にも男女両方からの視点を取り入れることの必要性を実感しました。

「おやじの集い」を発足

昨年、中学校のPTA会長になったのに合わせ「おやじの集い」を立ち上げました。小学校は「おやじの会」が盛んなのに、中学校にお父さんたちのコミュニティがないのはもったいないと考え、呼びかけのチラシを配布して開いている集まりです。「会」ではなく「集



▲エセナおたの「夏休みパパと一緒にワクワク体験」講座でパパの交流タイムを担当。本業でも地域に貢献

い」としたのは参加のハードルを下げ、まずは知り合っことを目的にできればと考えたため、みんな楽しんで参加しています。

小学校の「おやじの会」では、毎年夏休みの初めに、学校の体育館をオバケ屋敷に仕立てて「きもだめし」を開催してきました。しかし、中学校では子どもと親の距離感も変わることから、「おやじの集い」では運動会のパトロールなど、それまでPTA役員・委員のお母さんたちだけが手伝っていた学校行事で力仕事などを担っています。決して義務ではないのですが、お父さん同士で一緒に汗を流す楽しさもあり、十数人が自主的に参加してくれています。また、町会などの地域行事の手伝いも始めています。

子どもが中学生になると、仕事を始めるお母さんも増えます。女性活躍がいわれる中、女性が「家庭」も「地域」も「仕事」も引き受けるとなると大変です。家事や育児を分担するのは当然ですが、学校や地域に関わる役割も夫婦で分担できるとよいです。女性活躍のためには、同時に「地域での

男性活躍」が必要ではないでしょうか。

チク(地区)メンとして今後の抱負は？

区の非常勤専門職として、昨年、区内小・中学校の「おやじの会」の調査を行い、小学校の7割、中学校の3割にあることがわかりました。今年6月には調査報告を兼ねて、初めて「おやじの会」交流会を行い、26校が参加しました。今後も定期開催していきたいです。

男性にとって地域に活躍の場、つまり「足場」がたくさんあることは、地域が豊かになる上でとても大事です。

中学校では「おやじの集い」をつくりましたが、子どもが卒業すれば再び「足場」がなくなりそうです。たとえば「地域版おやじの会」のような、学校単位の枠にとらわれない地域のお父さんによるボランティアチームがあれば、活動を続けたい、あるいは始めたい人にとって活躍の場となります。そんな男性の「足場」を増やすことで、人手不足に悩む地域団体の人材確保にもつながっていきそうです。



「おやじの集い」では、お揃いのTシャツをつくりました。イベント時には、皆でこれを着てパワーアップ!

